

# 「一人じゃないと思える社会へ」

小田原市立泉中学校

三年 佐藤 菜都寧

ある少年が友達に頼まれて万引きをしたというニュースを見ました。

社会を明るくする運動について調べていた私は少年院について調べることになりました。インターネットで少年院に入った人々の動画を見ていると、ほとんどの人が過去に虐待やいじめ、学校や家に居場所がないなど、様々な問題や辛い経験を抱えていました。そんな彼らは、誰にも頼れず、相談できないという孤独を感じていることが分かりました。きっと一人になるのは嫌だ、孤独になるのが怖い、誰か周りにいないと不安になってしまおう、そういうった思いで犯罪に手を出してしまったと思います。

そんな彼らに必要だったのは支えだと思いません。元気がないとき話しかけてくれる人、失敗しても笑って大丈夫と言ってくれる人そんな相手が必要だったと思います。自分一人だけじゃ抱えきれなくなって、犯罪を犯してしまうのが原因だと思うからです。

私はそんな人たちが少しでも減るように、その人たちの支えになりたいと思います。しかし簡単に心を開いてくれるとは思いません。私には帰ってきたらおかえりと言ってくれる家族や笑って話せる友達がいるからです。彼らとは育ってきた環境も違うからきつと辛い経験や思いを全て理解することはできないと思います。彼らと同じような経験をした人たちが集まり、気の合う人としか心が開けないのだと思います。では私はどうやったら彼らの支えになるのでしょうか。

そこで私はあいさつをかわすことが大事だと思いました。過去の辛い経験や思いを全て理解することはできないから、過去のあやま

ちから立ち直り、あいさつからスタートしてそこから話していけばいいと思います。誰だって知られたくない過去はあると思います。誰もがすぐに変われるわけじゃないから、だから私は相手の立場を考えて思いやることを大切にしたいと思います。自分の言葉で相手を傷つけないように自信を持って話しかけていきたいと思います。

これまで私は犯罪を犯した人がどうしてそんな酷い事をするのか全く理解できませんでした。しかし、辛い経験や社会の理不尽によって追い詰められ犯罪を犯すしかなかった人もいるのだなと思いました。でも最後に犯罪を犯すと決めたのはその人だからそこはしっかりと責任をとらなければいけないと思います。あの時やらなければよかったと後悔しないように、私たちはたくさん支えがあると、一人で何でも抱え込まなくていいこと、困ったら誰かに頼ったっていいことを社会を通して伝えていくべきだと思います。